

巨匠

生誕一〇〇年

が撮った

高峰秀子

写真展



撮影 大竹省二 1960年

昭和4(1929)年、5歳で映画デビュー。サイレント時代から戦後の映画黄金期にかけて、半世紀の間、多くの名監督の作品に主演した不世出の女優・高峰秀子。その数、400本近く。国内外の映画受賞数は日本映画界最多を誇ります。

つねにカメラの被写体となってきた女優に、日本の写真史に大きな足跡を残す写真家8人がレンズを通して挑んだ作品群。才能焔めく写真家が、それぞれ独自の眼差しで切りとった高峰は、明らかに異なる佇まいと表情を見せています。

写真は撮る側と撮られる側の覚悟、レンズを通じた人と人との間の熱い瞬間を伝えてくれます。エッセイストとしても知られる高峰と写真家たちの文も併せて展示、撮影現場の感性と魂のぶつかり合いを感じられる作品展です。

2024
11/9土 ~ **12/8**日

開館時間 10時~18時(木・金曜日は20時まで)
*入館は閉館の30分前まで

休館日 毎週月曜日

観覧料 一般 1,200円 | 学生・65歳以上 1,000円 | 中高生 800円

*チケットは当日販売のみ *20名以上の団体は一般960円 / 学生・65歳以上800円 / 中高生640円 *小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者2名までは無料

お問い合わせ 高峰秀子生誕100年プロジェクト実行委員会
電話:0879-82-7000

東京都写真美術館 [地下1階展示室]

TOP MUSEUM

木村伊兵衛
Kimura Ihei
土門拳
Domon Ken
早田雄二
Hayata Yuji
林忠彦
Hayashi Tadahiko
秋山庄太郎
Akiyama Shotaro
大竹省二
Orake Shoji
操上和美
Kurigami Kazumi
立木義浩
Tatsuki Yoshihiro

主催 高峰秀子生誕100年プロジェクト実行委員会
共催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
協力 田沼武能写真事務所、公益財団法人さかた文化財団 土門拳記念館、株式会社土門拳写真研究所、日本ドリームコンテンツ株式会社、林義勝、秋山庄太郎写真芸術館、大竹省二事務所、有限会社CAMELL、立木義浩事務所、株式会社ハースト婦人画報社、一般社団法人日本カメラ財団、有限会社ACG、東宝株式会社、松竹株式会社、株式会社KADOKAWA、一般社団法人日本映画製作者連盟、東京都港区、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団

女優嫌いの大女優が日本映画界に遺した名作たち

「女優嫌い」とは何と不穏当なお思いの方もいらっしゃるかもしれませんが、高峰は5歳でデビューして以来、「私はこの仕事に向いていない」と感じ、一日でも早く女優をやめたいと思っていた人です。

しかし引退する55歳まで50年間、無遅刻無欠席で撮影にのぞみ、「私は全力を尽くすだけ。出来上がった作品をどう感じるか、それはご覧になったお客様の自由です」と言っていました。

目立つこと、派手なこと、ひと前に出ることが苦手で、「深い穴の底でじっとしたい」が理想だった高峰が遺した仕事を観てやってくださいませ。

最後に高峰の言葉を。

「自分のお財布からお金を出して、映画館まで足を運んでくれて、私が出た映画を観てくださるお客様、その一人一人が私の勲章です」。

松山善三・高峰秀子 養女／文筆家 斎藤明美

企画監修

斎藤明美
養女・文筆家



1956年、高知県生まれ。(本名：松山明美) 津田塾大学卒業。高校教師、テレビ構成作家を経て、「週刊文春」の記者を20年務め、2006年フリーに。1999年、小説『青々と』で日本海文学大賞奨励賞受賞。

2009年、週刊文春の記者時代から親交のあった松山善三と高峰秀子の養女となる。

著書に『高峰秀子の捨てられない荷物』『最後の日本人』『高峰秀子の流儀』『高峰秀子が愛した男』など。

近著の『高峰秀子おしやれの流儀』をはじめ高峰秀子を研究する書籍を刊行する一方で、松山・高峰の著書を復刻、二人が生前設立した遺志を継いで、一般財団法人「一本のクギを讀める会」の代表理事を務めている。



『衝動殺人 息子よ』
©1979 松竹株式会社

上映プログラム

11/19 (火)	10:30	『妻の心』(1956 東宝・監督 成瀬巳喜男 98分)
	14:00	『二十四の瞳』(1954 松竹・監督 木下恵介 156分)
11/20 (水)	10:30	『無法松の一生』(1958 東宝・監督 稲垣浩 104分)
	14:00	『名もなく貧しく美しく』(1961 東宝・監督 松山善三 128分)
11/21 (木)	10:30	『妻の心』(1956 東宝・監督 成瀬巳喜男 98分)
	14:00	『浮雲』(1955 東宝・監督 成瀬巳喜男 124分)
11/22 (金)	10:30	『乱れる』(1964 東宝・監督 成瀬巳喜男 98分)
	14:00	『名もなく貧しく美しく』(1961 東宝・監督 松山善三 128分)
11/23 (土)	10:30	『秀子の車掌さん』(1941 東宝・監督 成瀬巳喜男 54分)
	14:00	『恍惚の人』(1973 東宝・監督 豊田四郎 102分)
	16:00	● 斎藤明美 トーク
11/24 (日)	10:30	『無法松の一生』(1958 東宝・監督 稲垣浩 104分)
	13:30	『浮雲』(1955 東宝・監督 成瀬巳喜男 124分)
	16:00	● 斎藤明美 トーク
11/26 (火)	10:30	『乱れる』(1964 東宝・監督 成瀬巳喜男 98分)
	14:00	『放浪記』(1962 東宝・監督 成瀬巳喜男 123分)
11/27 (水)	10:30	『女が階段を上る時』(1960 東宝・監督 成瀬巳喜男 111分)
	14:00	『衝動殺人 息子よ』(1979 松竹・監督 木下恵介 131分)
11/28 (木)	10:30	『秀子の車掌さん』(1941 東宝・監督 成瀬巳喜男 54分)
	14:00	『放浪記』(1962 東宝・監督 成瀬巳喜男 123分)
11/29 (金)	10:30	『恍惚の人』(1973 東宝・監督 豊田四郎 102分)
	14:00	『女が階段を上る時』(1960 東宝・監督 成瀬巳喜男 111分)
11/30 (土)	10:30	『稲妻』(1952 大映・監督 成瀬巳喜男 87分)
	14:00	『二十四の瞳』(1954 松竹・監督 木下恵介 156分)
12/ 1 (日)	10:30	『稲妻』(1952 大映・監督 成瀬巳喜男 87分)
	13:30	『衝動殺人 息子よ』(1979 松竹・監督 木下恵介 131分)
	15:55	● スペシャルトーク 映画監督 橋口亮輔 × 斎藤明美

映画上映後に、トークイベントを開催いたします

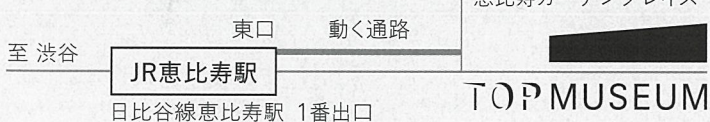
11/23 (土) 16:00 ● 斎藤明美 トーク
 11/24 (日) 16:00 ● 斎藤明美 トーク
 12/ 1 (日) 15:55 ● スペシャルトーク
 映画監督 橋口亮輔 × 斎藤明美
 当日午後の上映回の座席指定券をお持ちの方のみご参加いただけます。
 (トークのみのご参加は不可)。諸般の事情により変更、
 または中止になる場合がございます。予めご了承ください。

映画鑑賞方法のご案内

料金 | 1,200円 (全席指定)

各回定員入替制 / 立ち見不可 / 事前予約不可

- ・ご鑑賞当日午前10:00より、その日の全ての上映回について販売を開始いたします。
- ・開場は各上映開始時間の10分前を予定しています。
- ・満席の場合、ご入場をお断りいたしますので、予めご了承ください。



東京都写真美術館 Tel 03-3280-0099 www.topmuseum.jp
 〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
 アクセス▶JR恵比寿駅東口より徒歩約7分/東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分
 ※当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

『稲妻』©KADOKAWA 1952

